

令和7年度 北海道大学医学部医学科学士学位記伝達式告辞

102期の109名の皆さん、卒業おめでとうございます。医学科の課程を修了し、これから医師として活躍される皆さんの輝かしい門出を、医学部教職員を代表して心からお祝い申し上げます。

特に102期生の皆さんの多くは2020年の入学、まさにコロナ禍が始まったばかりで、大学から学生が消えた時期でした。入学式も中止となり、皆さんの学生生活は想像していたものとは大きく異なるもので、様々な苦労があったと思います。その後学年が進みながらもオンライン授業での学習は、制約も多く、思うように学習が進まなかった部分もあったと思います。何よりも、同級生との対面での交流がなかったことは、大きなデメリットを感じたことでしょう。しかし皆さんはそのような中でも、前を向き、できる限り多くを学び、そしてしだいに世の中が落ち着く中で、通常の学生生活に戻って行ったことと思います。この未曾有の事態を体験して乗り越えたことにあらためて敬意を表すると同時に、皆さんは、人として困難を乗り越える大きな力を得たと信じています。

きょう、皆さんの旅立ちにあたり、これから皆さんが医師として医学とどのように向き合っていくと良いのか、についてお伝えします。

北海道大学の教育理念のひとつに「全人教育」があります。全人とは「知識・感情・志（こころざし）の調和のとれた人」と理解されています。1876年に、北海道大学の前身の札幌農学校の初代教頭ウイリアム・スミス・クラーク博士は、札幌農学校の開校祝辞で、「教育を受けようとする全ての学生達の胸に高邁なる大志 lofty ambition を抱かさずにはおかない。」と述べました。クラーク博士はまた、細かな校則を廃止し、be gentleman の一言を規則とし、学生の自律心と独立心を目覚めさせ、北大の全人教育の礎をつくりました。

医学の道において、「全人」となるために、大切なことは、医学に対する謙虚さと誠実さです。北海道大学を卒業した医師としての相応しいプライドと共に、謙虚で誠実であることを忘れてはなりません。

これからの医学の道において、国民から期待されている皆さんの使命は、優れた臨床能力を持つとともに、研究を通じて医学・医療の進歩に貢献できる指導的な医師となることです。行政に進み国民医療に貢献する道もあるでしょう。皆さんには、このような国民から負託された大きな使命があることを深く心に刻んでください。現在、世界最高レベルにある日本の医療は、多くの先人によって築かれてきたものです。皆さんはこれから、この使命を果たしている諸先輩に出会い、指導を受け、そして立派な医師に育っていくことでしょう。そして、皆さんもまた高い志を持って医学に臨み、多くの患者さんを救い、医学の進歩に貢献するという使命を果たしてください。

優れた医師や研究者になるためには、医学・医療の新しい知識・技術をたゆまなく取り入れていくことが不可欠です。さらには、適確な判断力と批判力が必要となります。この判断力・批判力を養うためには、研究の場に身を置くことがきわめて重要です。研究者を目指している方はもちろんですが、医療の第一線で医師として活躍したいと考えている皆さんも、大学院博士課程に進学して、適確な判断力・批判力を涵養して欲しい

と思います。

最後に、札幌農学校の初代教頭であったクラーク博士が唱えた"be ambitious"（大志を抱け）という言葉は、世紀を超えて北海道大学を揺るぎなく支えてきた理念です。この言葉を胸に刻み、大きな夢と高い理想を持ち、自らの能力を最大限に発揮して、皆さんがそれぞれの分野でご活躍されることを祈念して、私の告辞とします。

令和8年3月25日

北海道大学医学部長 田中 伸哉